

地域福祉に関するサロン
アンケート調査結果報告書

令和5年3月

目次

I 調査概要

1. 調査目的	1
2. 調査対象者	1
3. 調査方法と調査時期	1
4. 回答率	1

II 調査回答集計

(問1) 参加者は平均どれくらいか	2
(問2) 活動年数はどれくらいか	3
(問3：高のみ) 参加者の平均年齢はどれくらいか	4
(問4：子) 活動の内容は	5
(問4：高) 活動の内容は	6
(問5) スタッフの数はどれくらいか	7
(問6) 活動頻度はどれくらいか	8
(問7) 他のグループ等と連携しているか	9
(問8) 自治会と連携したいと思うか.....	11
(問9) 困っていることは何か	12
(問10) 会費を徴収すべきと思うか.....	14
(問11) コロナ禍におけるイベント中止の判断基準は.....	15
(問12) コロナ禍以前との活動に変化があったか.....	16
(問13) 空き家を活用してみたいと思うか.....	17
(問14) 空き家を活用する問題点は何か	18
(問15) 空き家を活用しようと思わない理由は何か	19
(問16) とともに支えあう地域づくりを進めるためにどのようなことが必要か....	20
(問17) 地域福祉推進のご意見ご要望について	21

地域福祉に関する子育てサロン，高齢者・多世代サロン アンケート調査集計報告

I 調査概要

1. 調査目的

平成 31 年 3 月に市地域福祉計画・地域福祉活動計画（以下「本計画」とする。）を策定いたしました。その後の新型コロナウイルス感染症の影響による社会変化，複雑・複合化する地域の福祉課題等に対応するため，今般本計画の改正を予定しています。本計画の改正に伴い，サロン運営者の皆様が日頃のサロン活動の中で特に福祉の分野でお考えになっていることを伺い，本計画改定に反映させることを目的としています。

2. 調査対象者

市内子育て・子どもサロン 19 か所及び高齢者・多世代サロン 34 か所の合計 53 サロン

3. 調査方法と調査時期

調査方法：郵送配布，郵送回収・オンライン回答

調査時期：令和 5 年 1 月～2 月

4. 回答率

合計：79.24% (42/53 サロン)

サロン区分	送付数	回答数	回答率
子育てサロン	19	15	78.94%
高齢者・多世代サロン	34	27	79.41%
合計	53	42	79.24%

II 調査回答集計

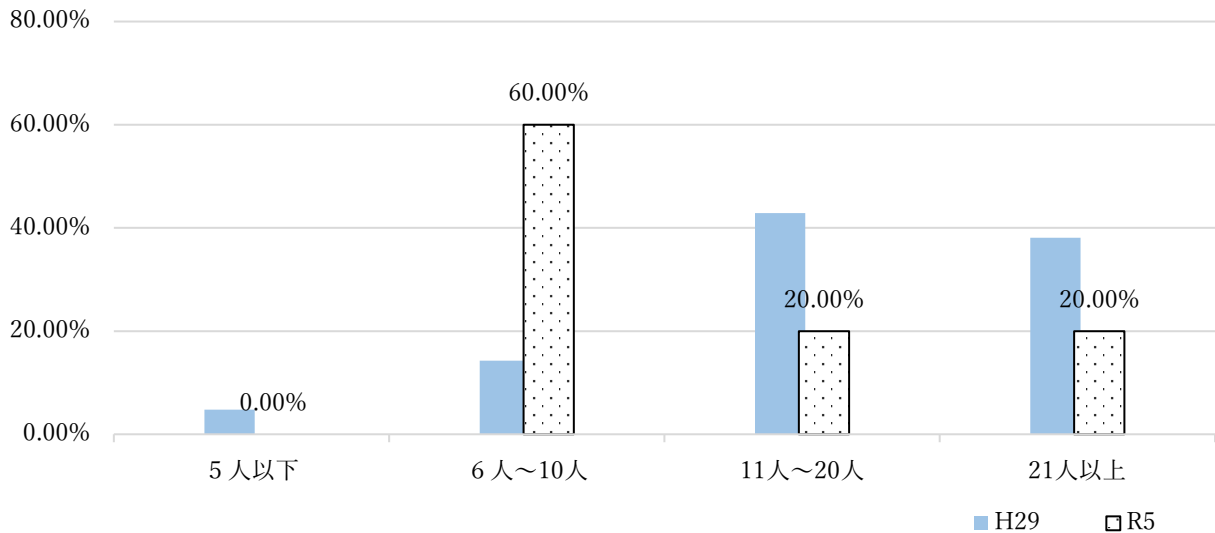
子育て・子どもサロン：以下「子育て」、高齢者・多世代サロン：以下「高・多」

問1 貴サロンの参加者は平均どのくらいですか。(子育てサロン等は保護者と子どもを合わせる)
(1つ)

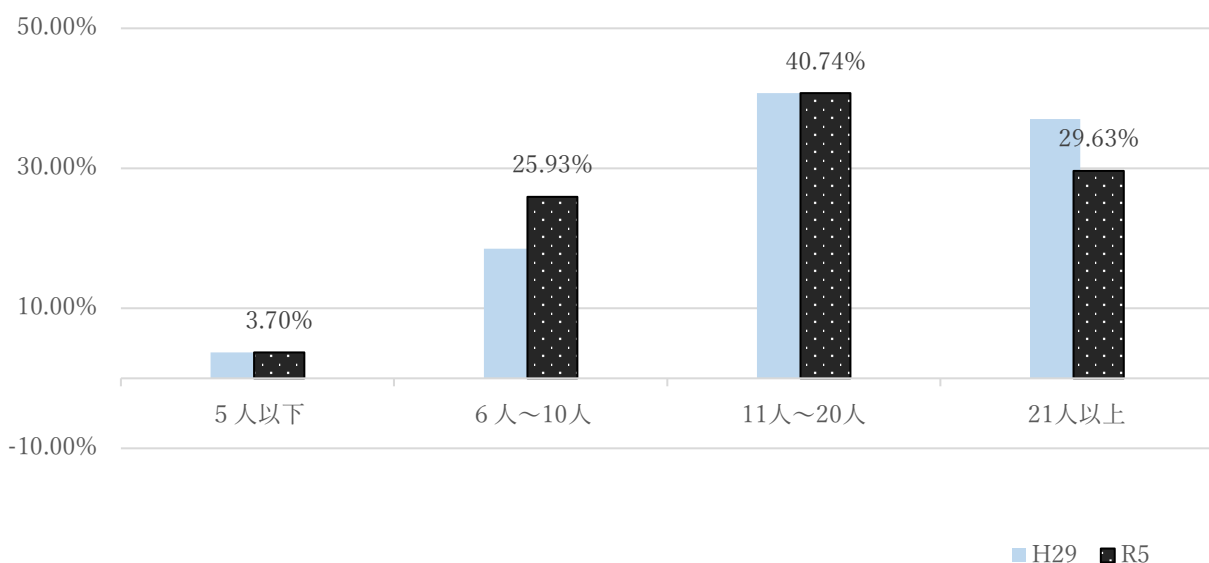
子育てサロンでは「6人～10人」・高・多サロンでは「11～20人」が多い。次いで子育てでは「11～20人」「21人以上」・高・多では「6～10人」「21人以上」が同程度の水準となっている。

5年前の調査結果と比較すると、今回は両サロンとも11～21人以上の計が80%あり、現在はコロナ禍での活動制限もあり小グループでの活動が多くなっている。

【子育て】参加者の平均はどのくらいか

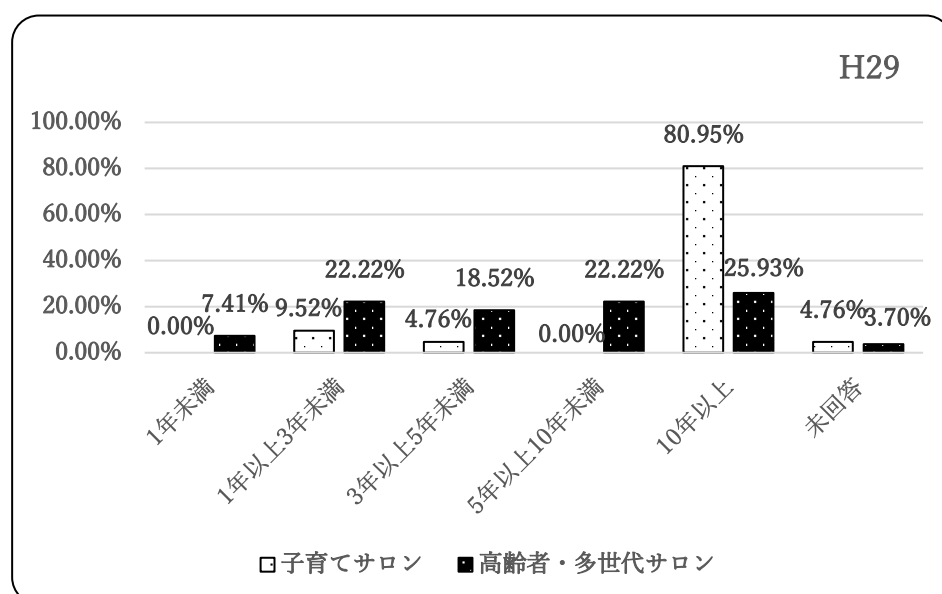
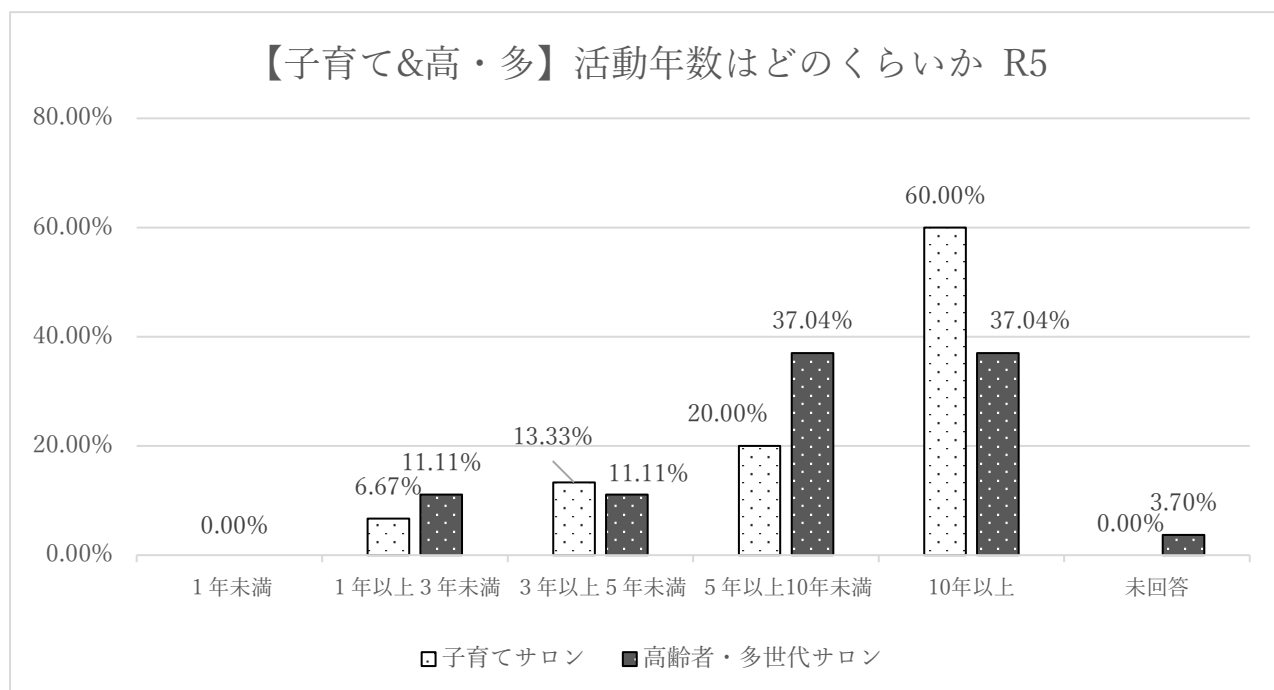


【高・多】参加者の平均はどのくらいか



問2 貴サロンの活動年数はどのくらいですか。(1つ)

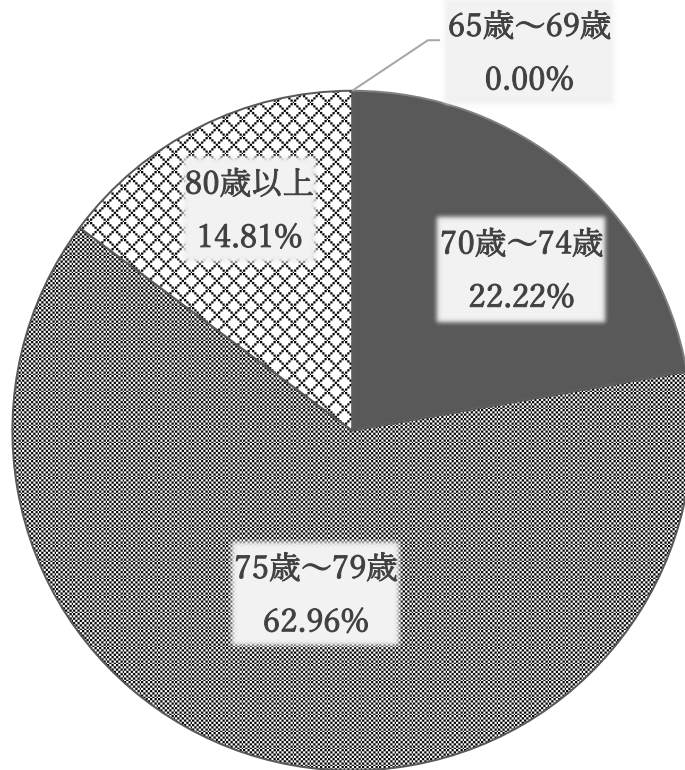
子育てサロンは「10年以上」が60.00%と多数を占めている。一方、高・多サロンは「5年以上10年未満」、「10年以上」がともに37.04%と多く、「1年以上3年未満」、「3年以上5年未満」がともに11.11%となっている。



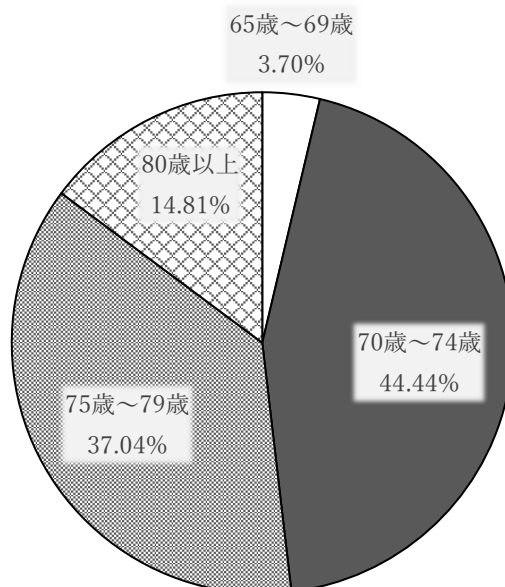
【高・多のみ】問3 貴サロンの参加者の平均年齢はどのくらいですか。(1つ)

「75～79歳」が62.96%と一番多い。次いで「70～74歳」が22.22%、「80歳以上」が14.81%と続いている。5年前の調査結果と比較すると、「75～79歳」の割合が20ポイント近く増加している。

【高・多】参加者の平均はどのくらいか R5



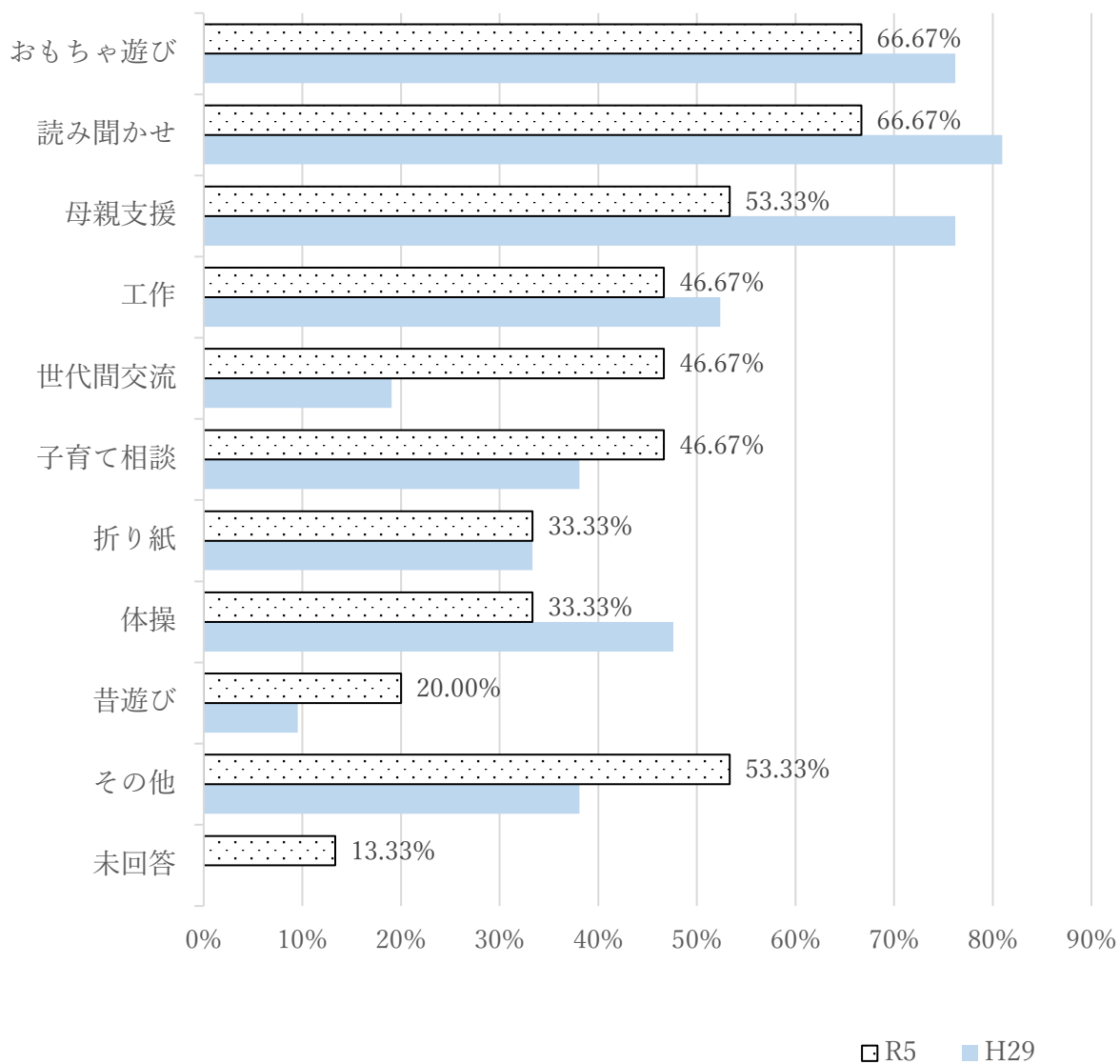
H29



【子育て】問4 貴サロンで取り組んでいる活動の内容をお答えください。(あてはまるものすべて)

「おもちゃ遊び」・「読み聞かせ」が多数を占めている。次いで「母親支援」と続いている。また、「その他」も 53.33%あり、内容は下記のとおり。5 年前の調査結果と比較すると、世代間交流が 23 ポイント増加している。また、その他意見の内容が室内で開催するものが多くなっている。

【子育て】活動の内容は



◆ 「その他」の意見

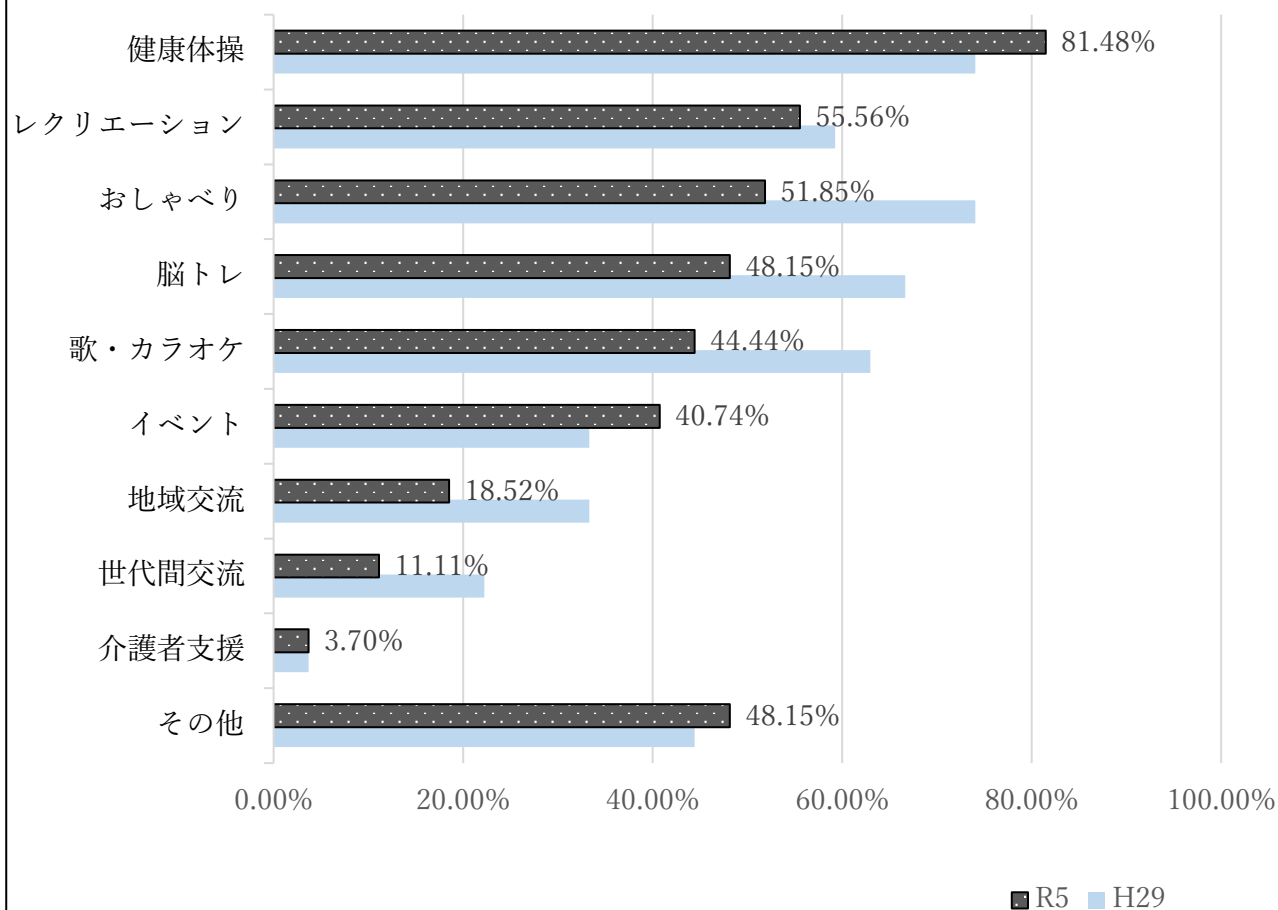
- ・紙芝居、手遊び、うた、自由遊び、音楽遊び（リトミック・ミュージックケア）、ふぁみりこ出前保育/出前講座、子育て相談につなぐ、親同士の交流、参加者の話を聴く
フリースクール・不登校児童生徒の居場所

【高・多】問4 貴サロンで取り組んでいる活動の内容をお答えください。(あてはまるものすべて)

「健康体操」が 81.48%と多数を占めている。「レクリエーション」が 55.56%、「おしゃべり」「脳トレ」と続いている。また、「その他」も 48.15%あり、内容は下記のとおり。

5年前の調査結果と比較すると、「おしゃべり」が 20ポイント以上減少している。その他の内容では、交流活動よりも学習会や講話など室内活動が多くみられた。

【高・多】活動の内容は



◆ 「健康体操」の内容

シルバーリハビリ、元気アップ体操、屈伸運動、県のいきいき体操、ヘルスケアセンター指導や包括支援センターによる体操・ストレッチ・貯筋体操、ステップアップ体操、リズム体操、ラジオ体操、椅子に座ったまま足・手などの体操、手話ダンス、脳トレ体操、踊り、

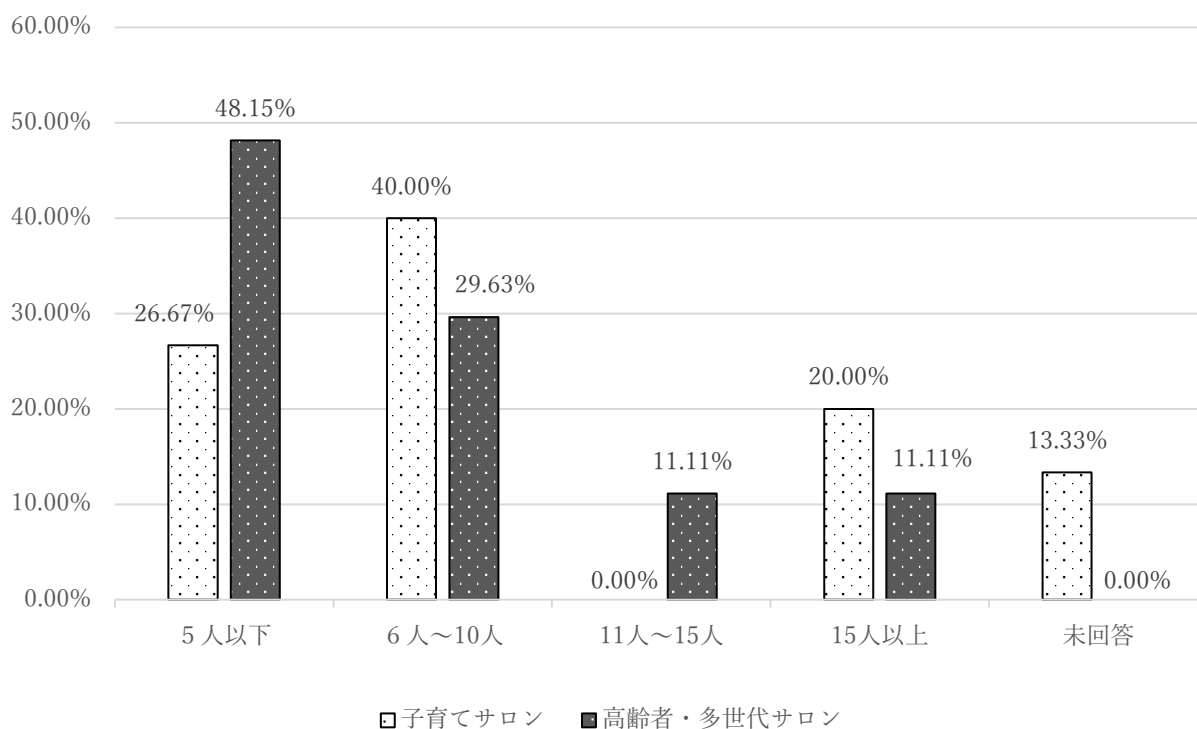
◆ 「その他」の意見

グランドゴルフ、ラダーゲッター、ピンポン、輪投げ、スポーツ吹き矢、誕生会、野外花見、忘年会、紙工作、紙芝居、書道、映画鑑賞、講話、テーマを決め学習会、学び・創作活動、健康教室

問5 貴サロンで活動しているスタッフの数ほどのぐらいますか。(1つ)

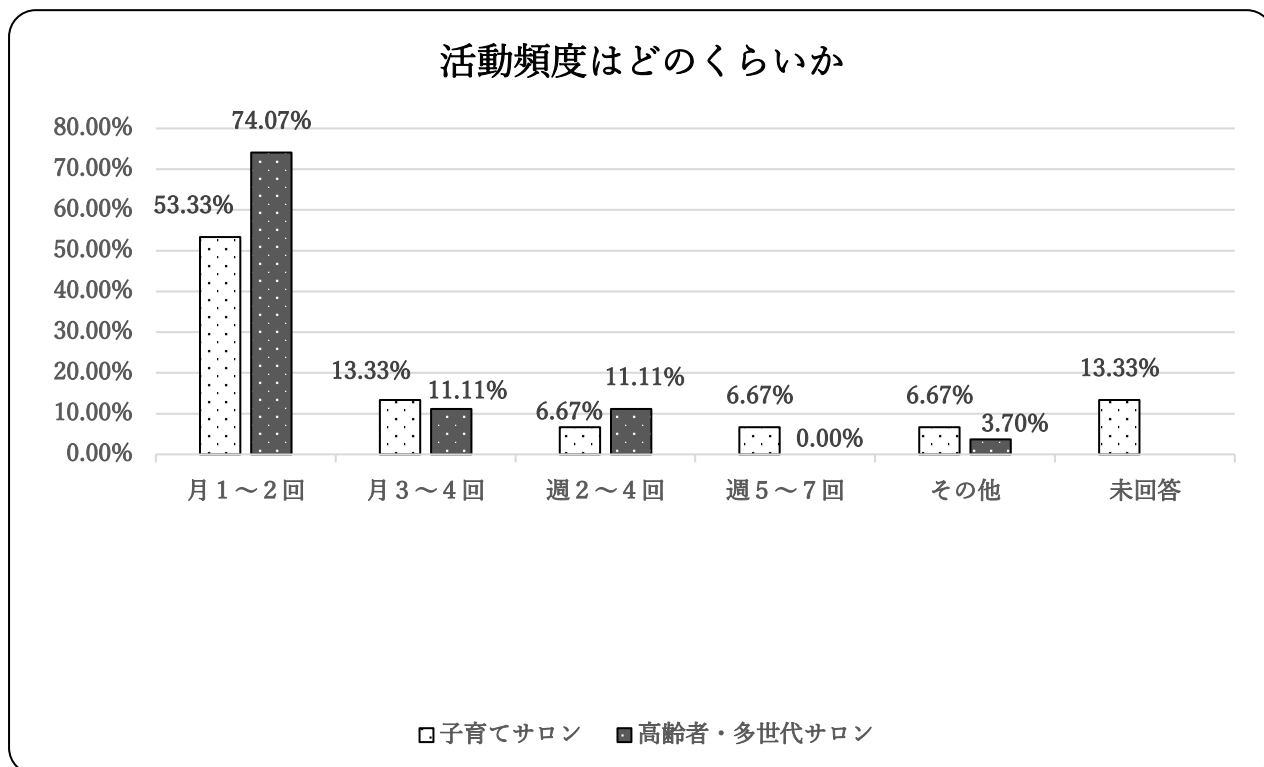
子育てサロンは「6人～10人」が40.00%と一番多く、次いで「5人以下」が26.67%「15人以上」が20.00%と続いている。高・多サロンは「5人以下」が48.15%と一番多く、次いで「6～10人」が29.63%と続いている。

【子育て&高・多】スタッフの数ほどのぐらいますか



問6 貴サロンの活動は、おおよそどれくらいの頻度で行っていますか。(1つ)

両サロンともに「月1～2回」(子: 53.33%, 高: 74.07%)が一番多い。次いで「月3～4回」(子: 13.33%, 高: 11.11%)が続いている。

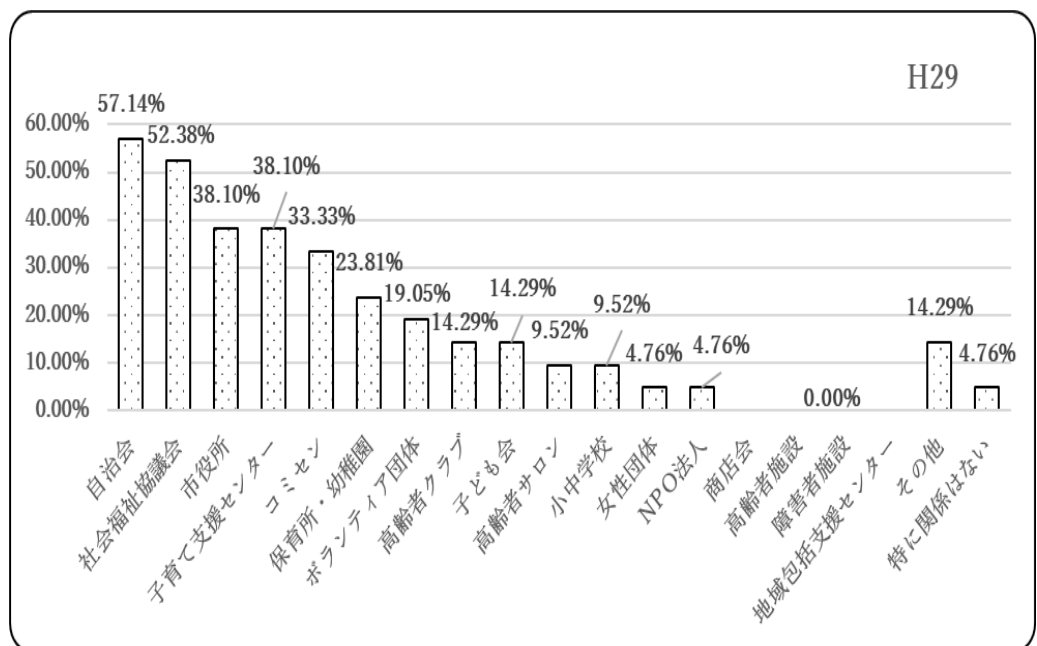
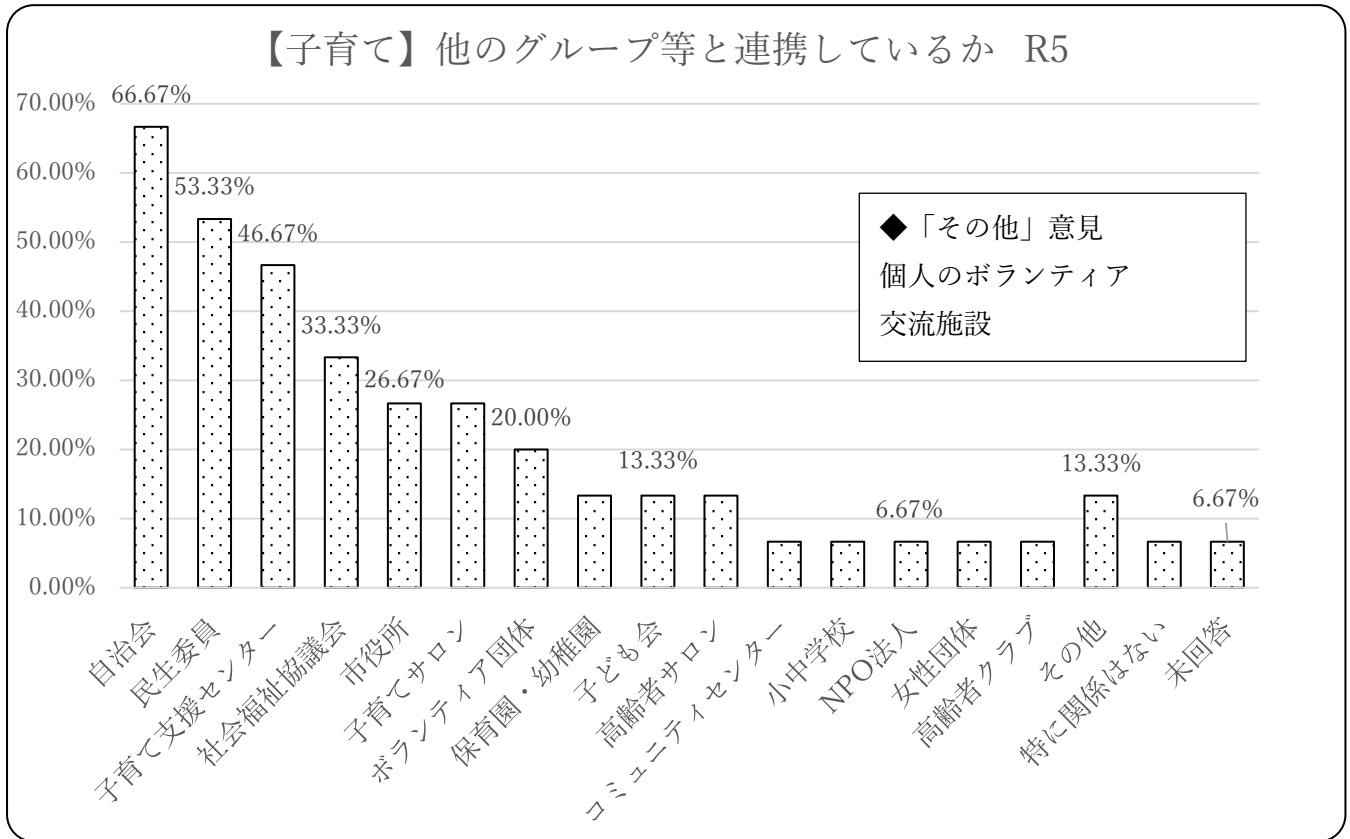


◆ 「その他」の内容

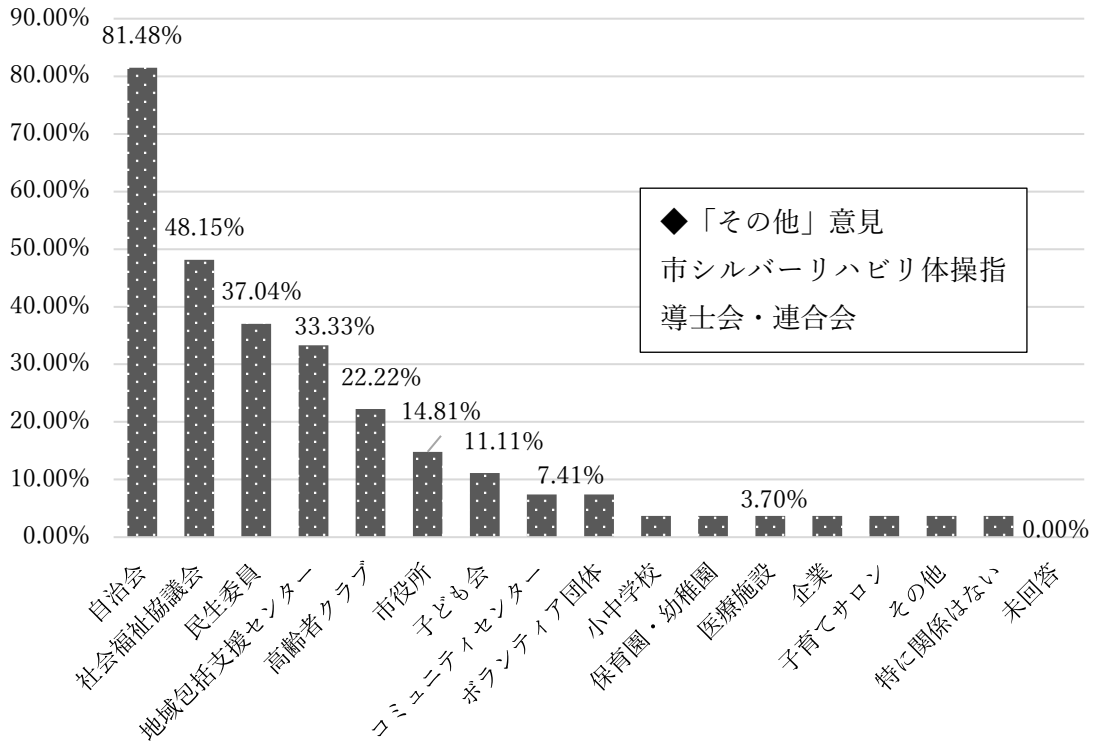
毎週1回、活動日以外に事前打ち合わせ・反省企画会議、年3回程度

問7 貴サロンでは、他のグループ・団体や公共機関などと連携していますか。(あてはまるものすべて)

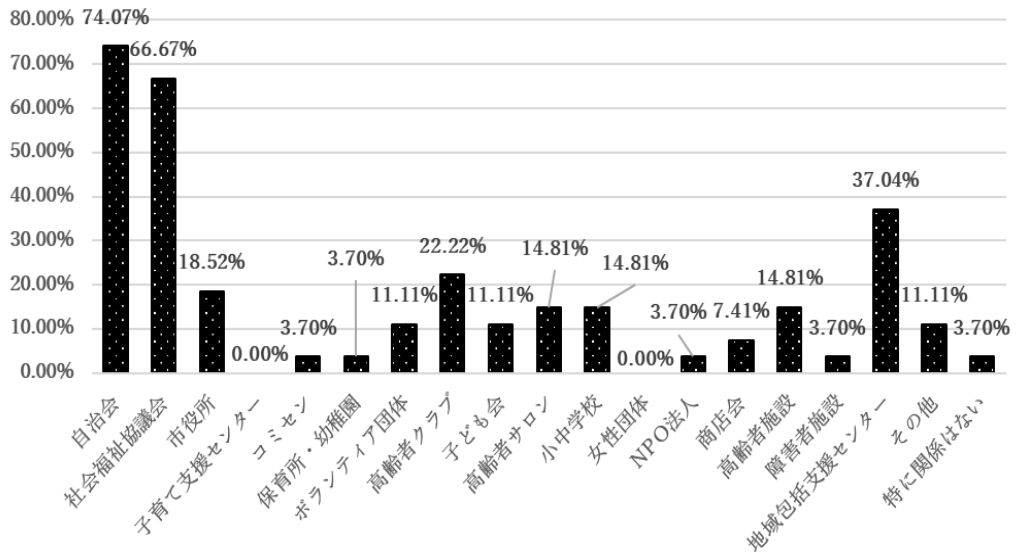
両サロンともに「自治会」(子:66.67%, 高:81.48%)と一番多い。次いで、子育てサロンは「民生委員」53.33%、高・多サロンは「社会福祉協議会」48.15%の順に多い。5年前の調査結果と比較すると、両サロンともに、「自治会」との連携が10ポイント程度増加している。



【高・多】他グループと連携しているか R5



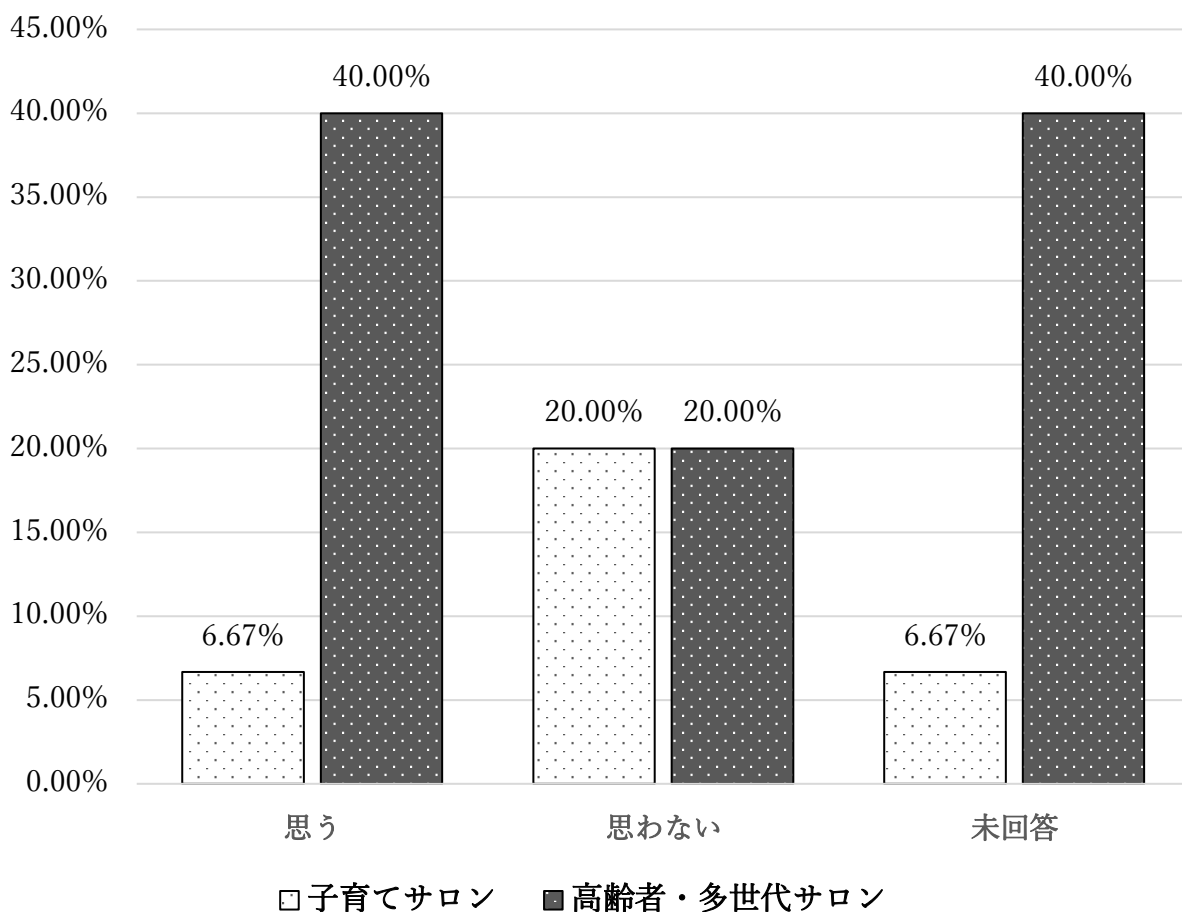
H29



問8 問7で「連携していない」と回答した方にお伺いします。今後自治会と連携したいと思いませんか。(1つ)

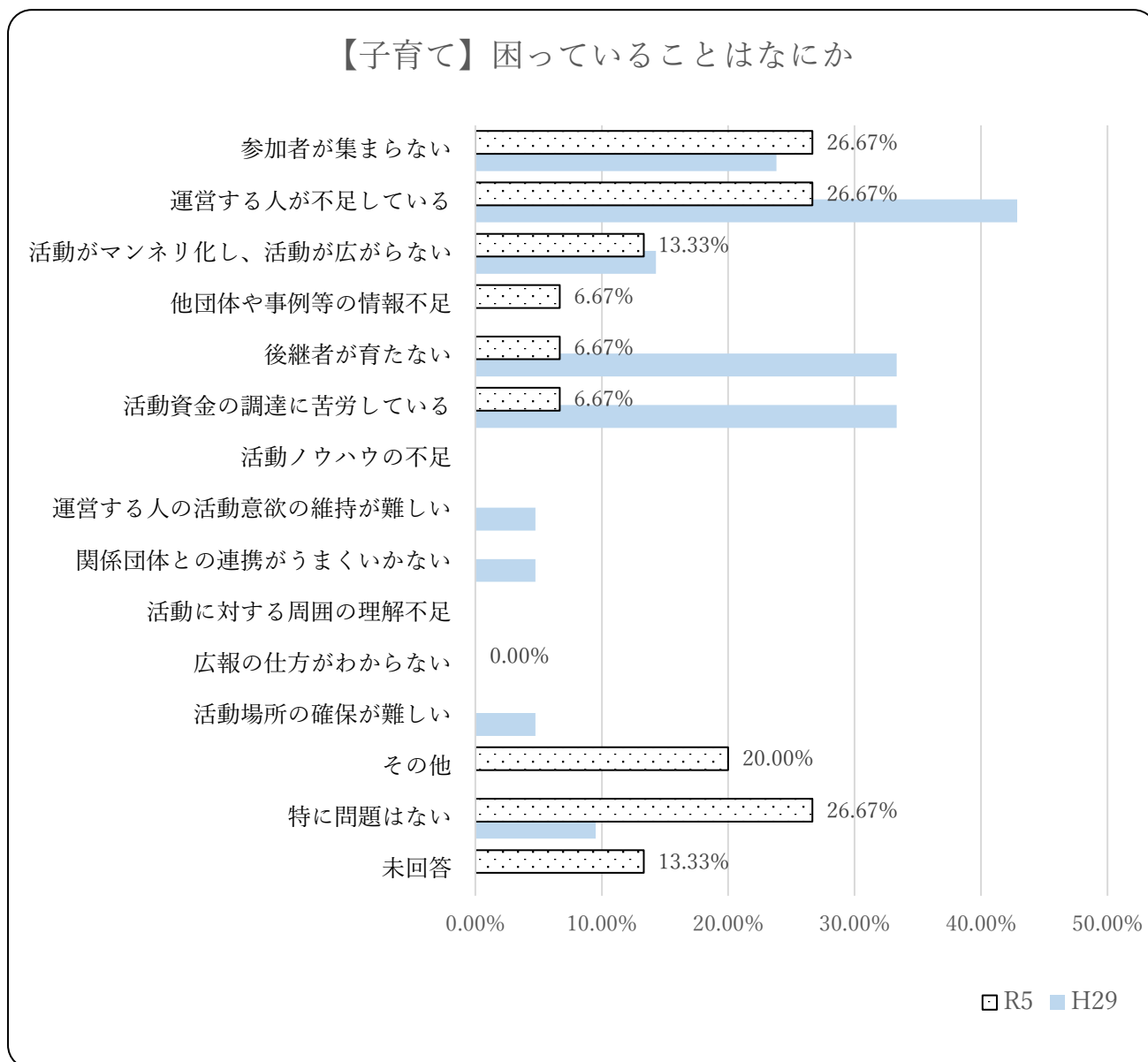
両サロンとも5か所が連携していないと回答。高・多サロンの方が「思う」との回答が多い。

【子育て&高・多】今後、自治会と連携を図りたいと思うか



問9 貴サロンの活動を行ううえで、困っていることは何ですか。(あてはまるものすべて)

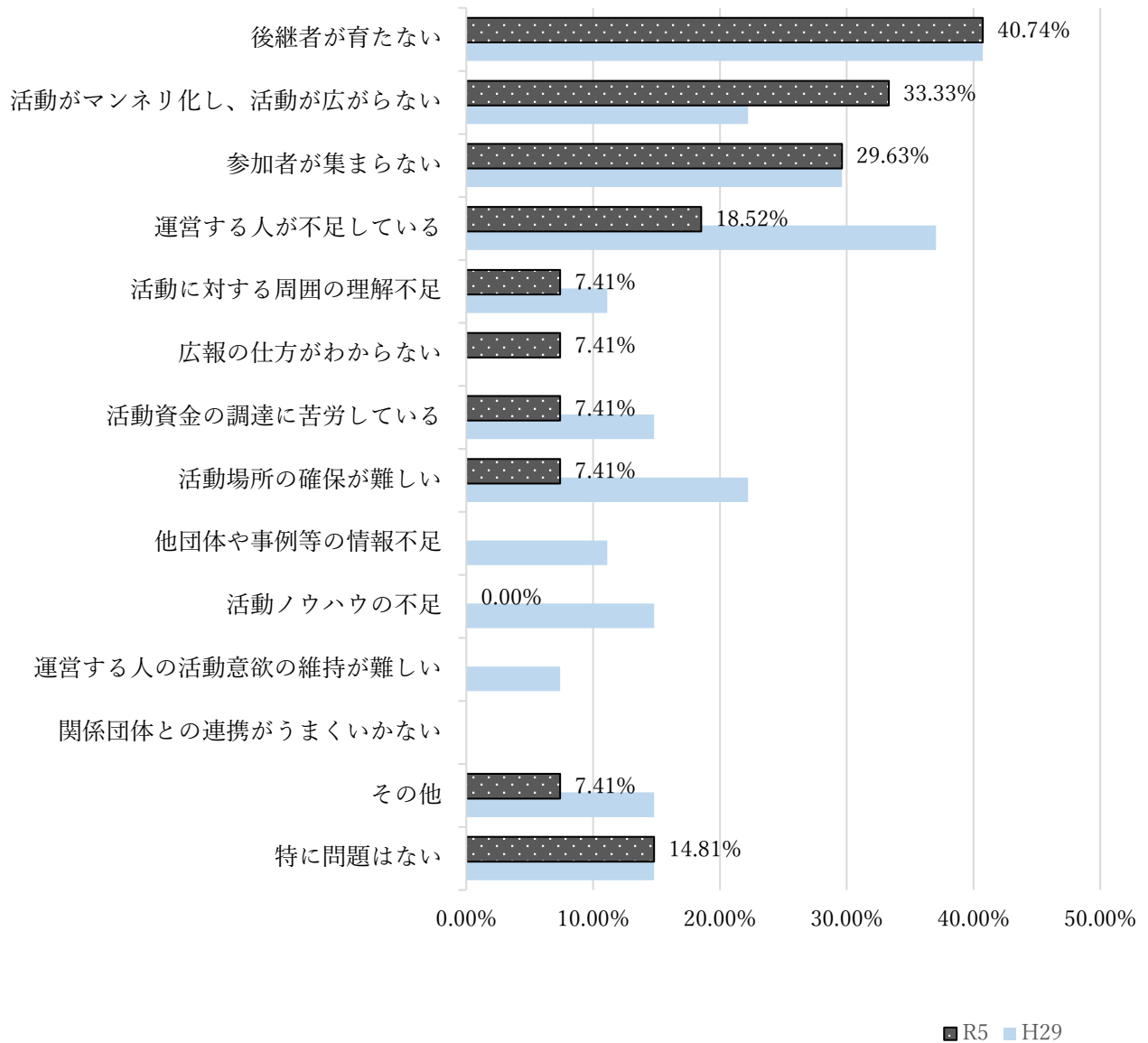
子育てサロンは「参加者が集まらない」「運営する人が不足している」(26.67%)が一番多い。一方で「特に問題はない」の回答も26.67%と同じ割合となっている。高・多サロンは「後継者が育たない」(40.74%)が一番多く、「活動がマンネリ化し、活動が広がらない」(33.33%)と続く。5年前の調査結果と比較すると、子育てサロンでは「活動資金」「後継者」について、高・多サロンでは「活動資金の調達」「活動場所の確保」が特に減少している。



◆ 「その他」の意見

- ・活動が広がらない
- ・昼食提供の再会のタイミングをいつにするか、人数制限あり昼食提供は採算がとれない

【高・多】困っていることはなにか



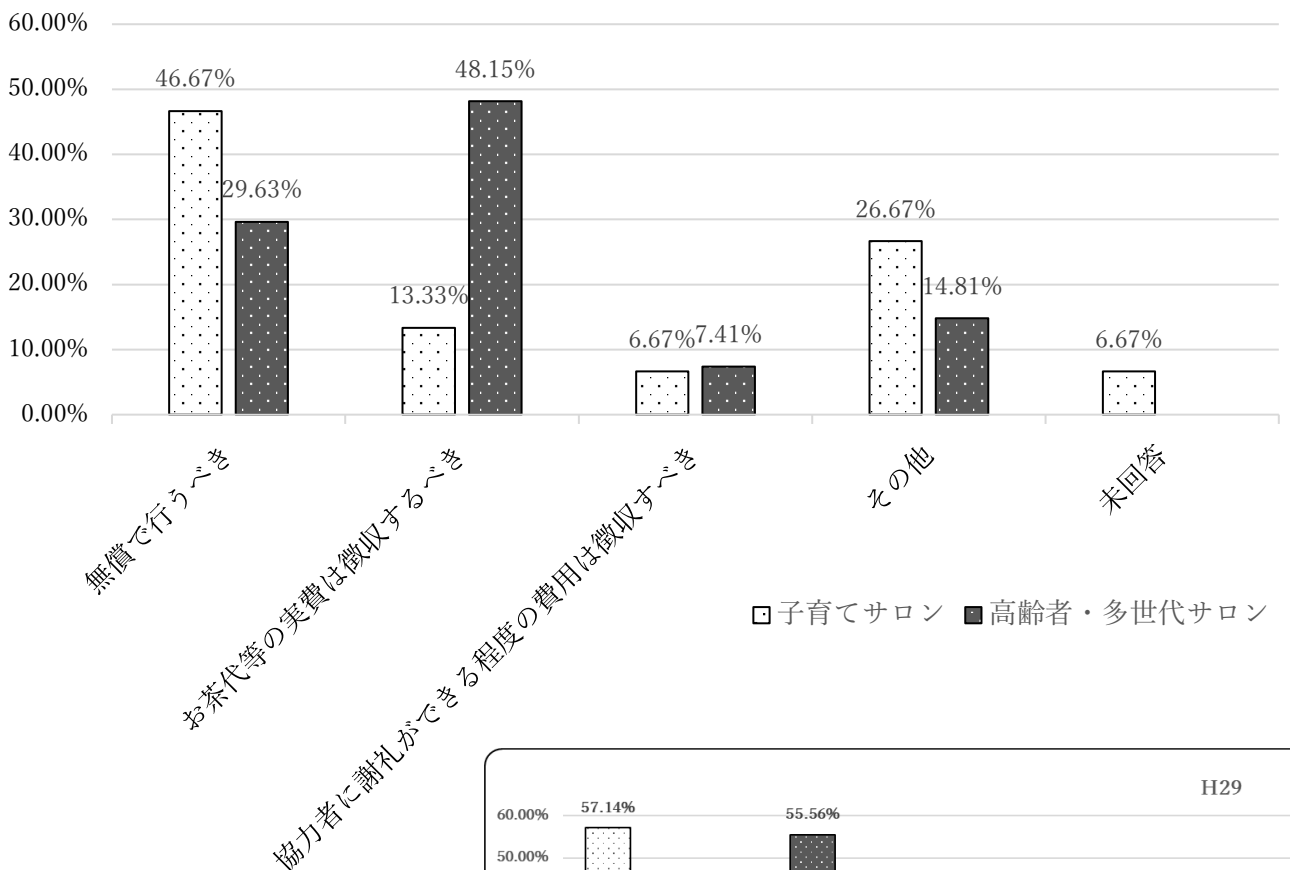
◆「その他」の意見

- ・自治会での集会所が無いので個人宅でやっているため皆に声掛けできない
- ・建物の維持が難しい

問10 サロン活動を行う場合は、会費は徴収すべきと思いますか。(1つ)

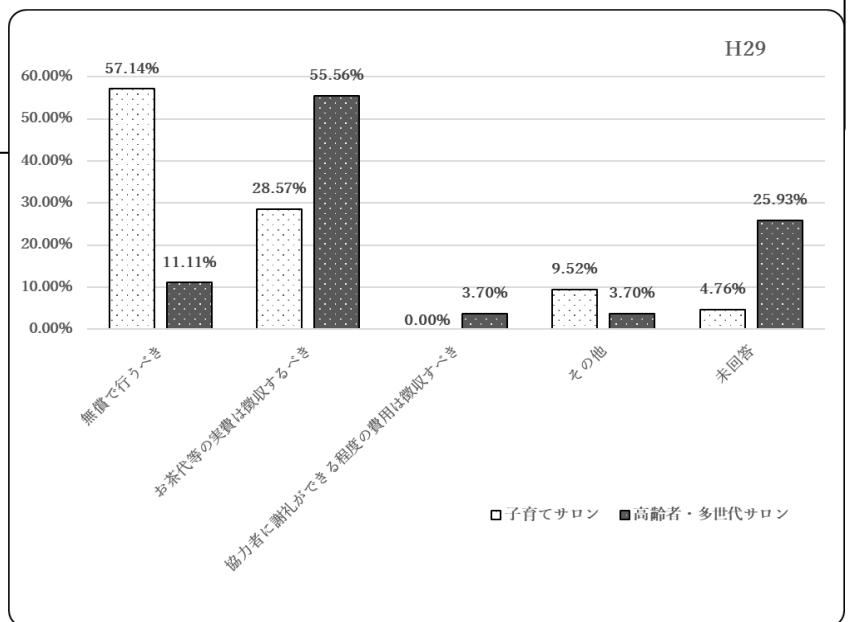
子育てサロンは「無償で行うべき」が46.67%と多く、「お茶代等の実費は徴収すべき」が13.33%と続いている。一方、高・多サロンは「お茶代等の実費は徴収すべき」が48.15%と多く、「無償で行うべき」が29.63%と続いている。5年前の調査結果と比較すると、高・多サロンで「無償でおこなうべき」の回答が増えている。

【子育て&高・多】会費は徴収すべきと思うか

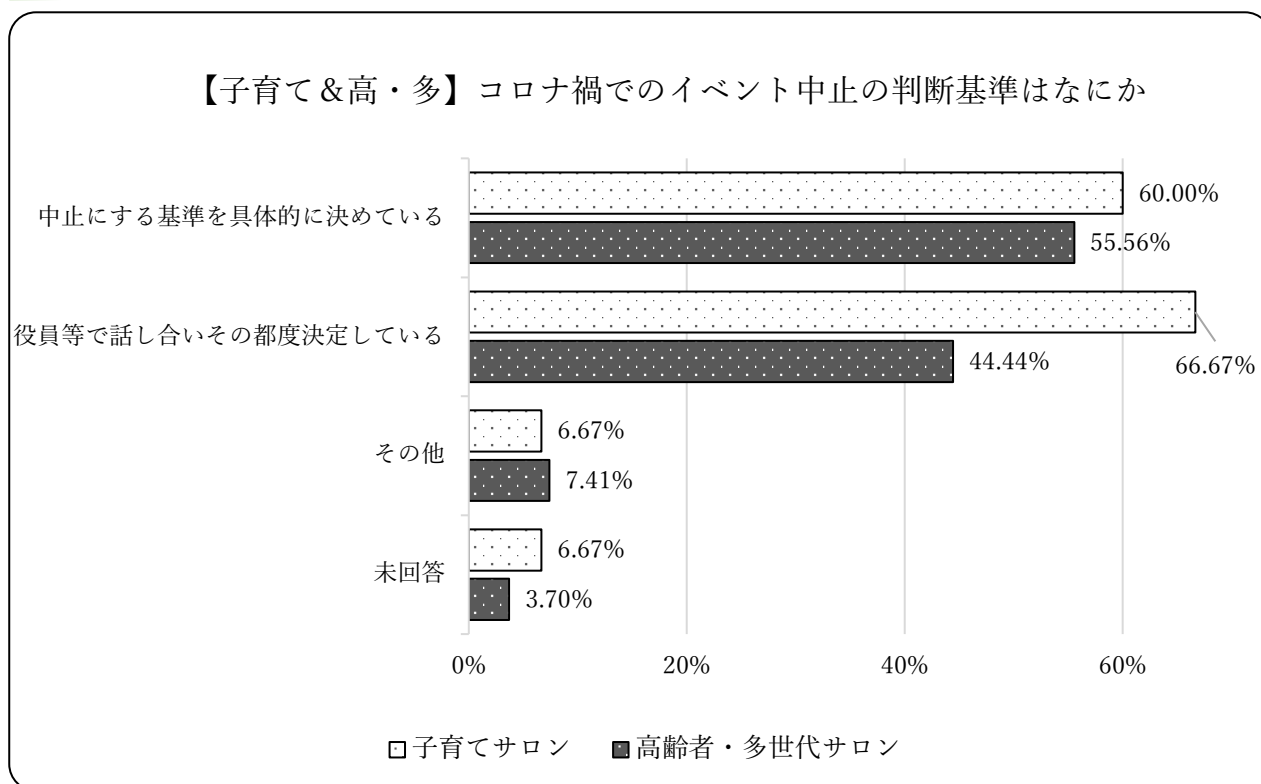


◆「その他」の意見

- ・福祉バス利用等による食事代は自己負担
- ・ボランティアに交通費は支給すべき
- ・社協助成金で賄っているので今のところは特にありません
- ・社協からの助成金・自治会からの補助金の範囲内で行えるなら無償で続けたいと思っています
- ・普通は無償で行う方がいいと思うが、イベント時は徴収してもよい
- ・自治会などの支援金があるので不足分は徴収 ・講師の謝礼



問 1 1 コロナ禍においてイベント中止の判断は何を基準にしておこなっていますか (あてはまるもの)
 各サロンで様々な判断基準が設けられている。(詳細は下記の通り)



◆ **具体的な基準**

- ・ 県の対策ステージ 4 または 3
- ・ 県の対策基準だが特に数字は考慮しない
- ・ 市内の感染者数、地域内での感染者数
- ・ 緊急事態宣言、まん延防止措置、休校
- ・ 社協の指示連絡
- ・ 市の運営基準
- ・ 自治会の判断に従っている
- ・ 地区内のサロン団体と協議する
- ・ 活動拠点の基準、会館状況

◆ 「その他」の内容

- ・ 社協からの要請
- ・ 可能な限りの科学的情報を集め、対策して開催の方向で努力を重ねてきている
- ・ スタッフで話し合う

問12 コロナ禍以前と比較して、貴団体の活動に変化はありましたか。(自由記述)

○子育てサロン

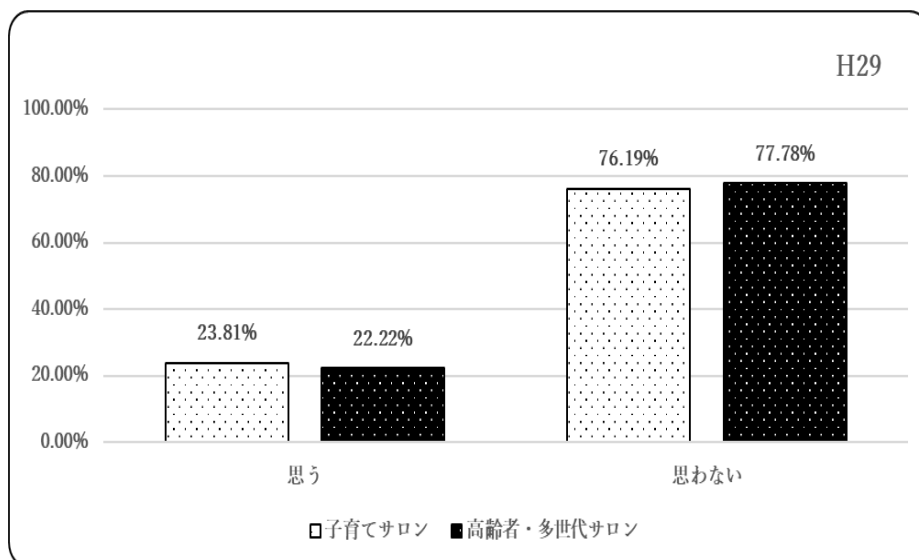
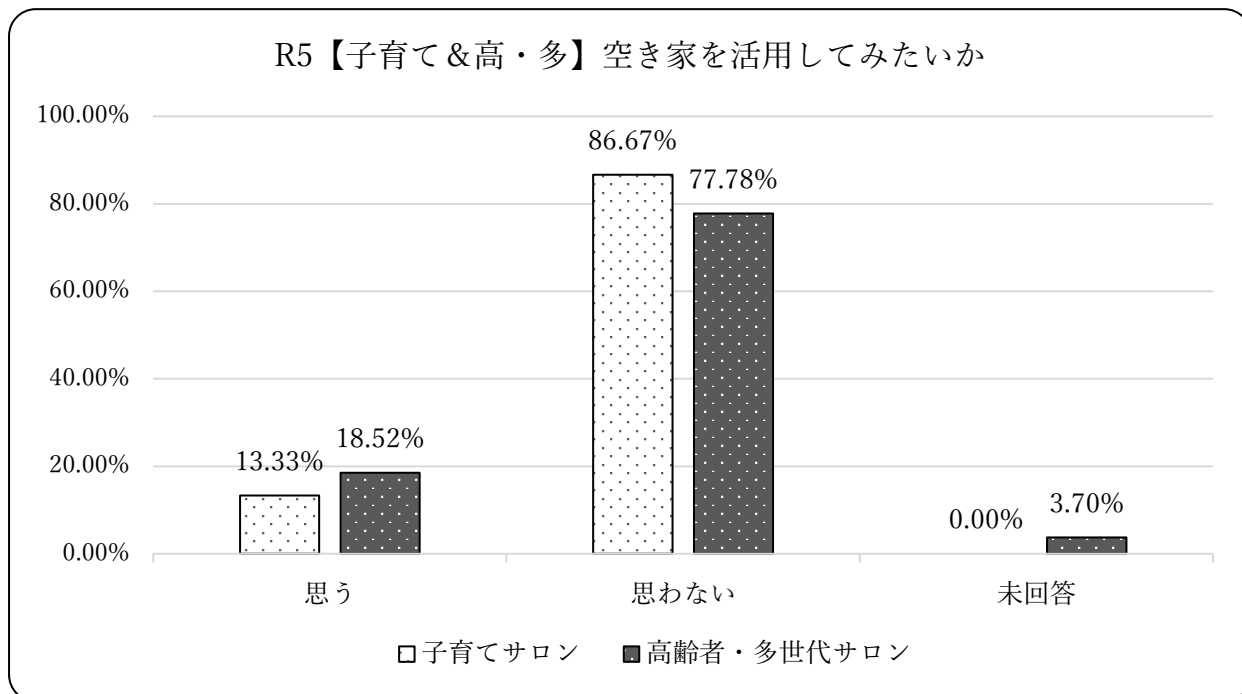
- ・活動を休止することで、以前より参加者が減った。
- ・自由参加から予約限定（人数制限）に変え密を避けるようにした。
- ・長期間にわたり休みにした。開始してからは特に変化はない。
- ・中止にすることが多かった（通常時・イベント・行事）
- ・最近では、少しずつ参加人数が増えてきた。
- ・3歳になると保育園に入れるので赤ちゃん（0歳）が多くなった。
- ・スタッフを減らして、食事を摂らないようにした。
- ・食事提供の停止、持ち帰りへ変更した。
- ・時間短縮。
- ・外遊びを多く取り入れた。
- ・手つなぎなどの接触する遊びをしない。
- ・遊具の殺菌実施。
- ・消毒などを含め衛生管理がし易いおもちゃなどに変更した。
- ・環境整備の充実化（消毒の徹底・検温・参加者健康チェック等）
- ・民生委員の中で、子育て委員以外の人たちのサロン活動に対する理解や協力が非常に良好であると感じている。

○高齢者サロン

- ・参加者が少なくなった。
- ・通常活動や恒例行事の中止。
- ・活動日数（回数）が減少した。
- ・活動時間の短縮。
- ・活動場所の変更。
- ・公園や庭など、室外での活動を取り入れた。
- ・活動場所が変更になったことで必要機材の運搬が必要になり苦慮している。
- ・食事提供をせず、中止や持ち帰りにした。
- ・以前より活動自体が控えめになった。
- ・たくさんの人に呼びかける企画ができない。
- ・単調な集合・体操の実施程度になってしまった。
- ・茶話会を通しての日常の交流を深める機会が減った。
- ・おしゃべりやお茶の楽しみが減ったので活動が寂しく感じる。
- ・おしゃべりを楽しむ時間が少なくなり、参加者の元気がなくなったように感じる。
- ・特に変化はなかった。各自体調に注意して参加していた。
- ・コロナとは共生してきている。

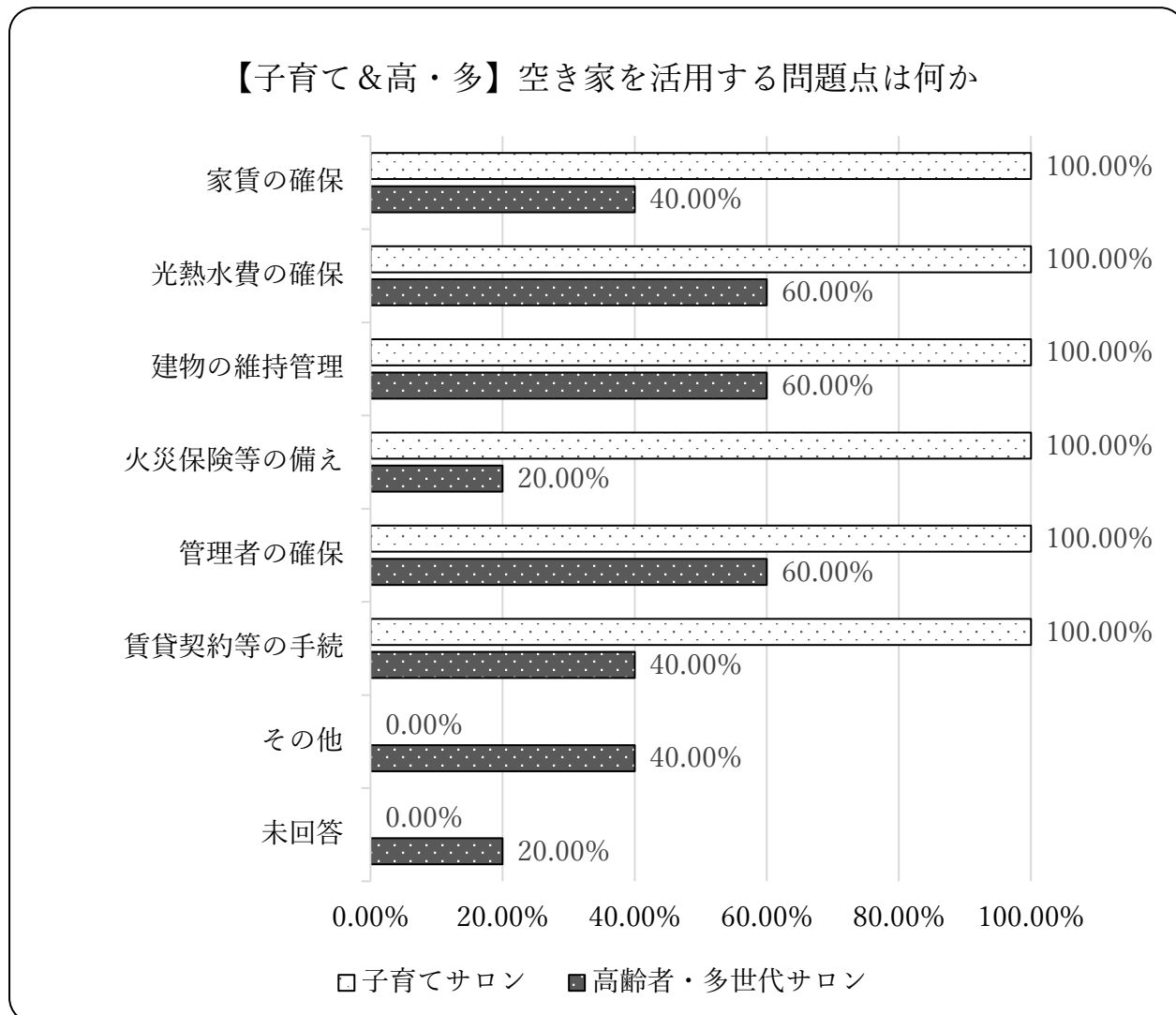
問13 ひたちなか市では空き家バンクを運営していますが、サロン活動を行うにあたり、空き家を活用してみたいと思いますか。(1つ)

両サロンともに「思わない」(子: 86.67%, 高: 77.78%)が多数を占めている。一方、「思う」(子: 13.33%, 高: 18.52%)と回答したサロンもある。



**問14 問13で「思う」と回答した方にお伺いします。活用するにあたっての問題点は
何だと思いますか。(あてはまるものすべて)**

子育てサロンはすべての項目が問題点と回答している。一方、高・多サロンでも、「光熱水費の確保」、「建物の維持管理」「管理者の確保」が多く占めている。



◆「その他」の意見

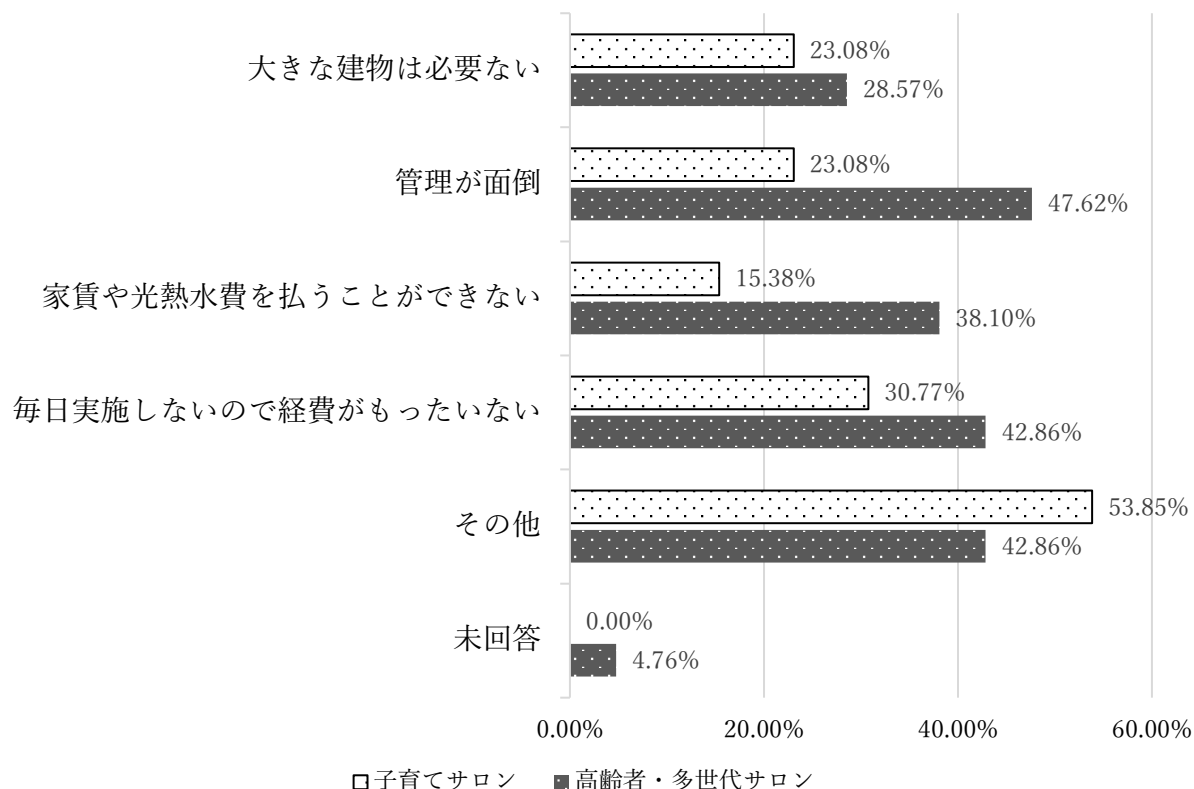
- ・環境・希望する物件がない
- ・自治会にすべて相談したい

問15 問13で「思わない」と回答した方にお伺いします。その理由は何ですか。

(あてはまるものすべて)

子育てサロンでは「毎日実施しないので経費がもったいない」(30.77%)、高・多サロンでは「管理が面倒」が一番多い。また、「その他」(子:53.85%, 高:42.86%)では、すでに活動場所がある等の回答が多くみられた。内容は下記のとおり。

【子育て&高・多】空き家を活用しようと思わない理由は何か



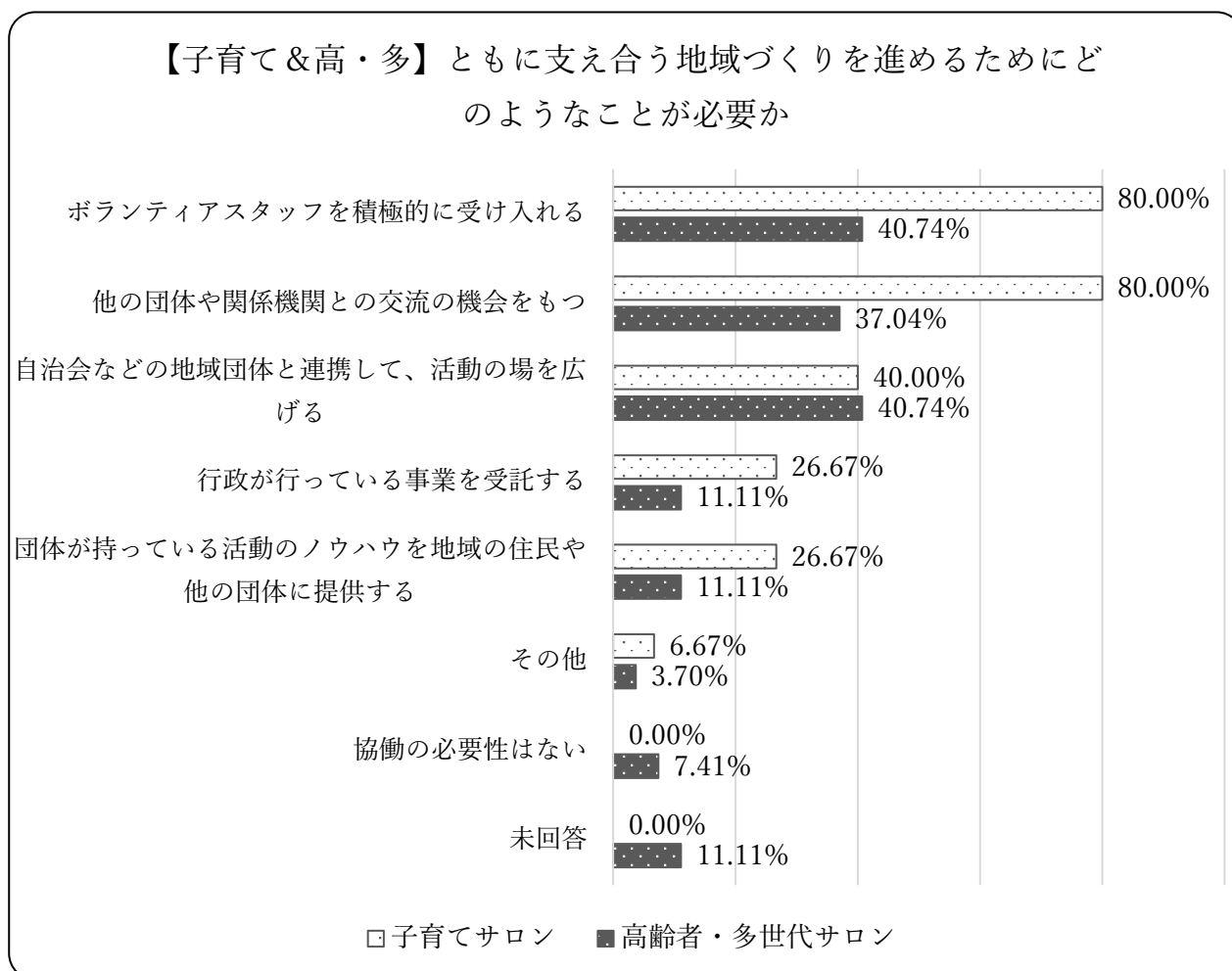
◆「その他」の意見

- ・自治会やコミセンの支援により場所は確保できている
- ・すでに活動場所があるため
- ・現在の拠点で満足しているため
- ・すでに空き家（市営住宅）を利用している
- ・運営していくうえで人が集まらない

問 16

誰もが住み慣れた地域で安心して暮らすことができる地域づくりを進めるためには、様々な主体（住民・事業者・ボランティア・NPO 団体・行政など）が協働していくことが求められていますが、貴団体の取り組みとして、今後どのようなことが必要だと思いますか。（あてはまるものすべて）

子育てサロンでは「他の団体や関係機関との交流の機会をもつ」・「ボランティアスタッフを積極的に受け入れる」（80%）が多数を占めている。高・多サロンでは「自治会などの地域団体と連携して、活動の場を広げる」・「ボランティアスタッフを積極的に受け入れる」（40.74%）が多くなっている。



◆ 「その他」の意見

- ・屋外に三世代交流
- ・子育て世代への支援
- ・ボランティアを含め、サロン協力スタッフに対して多少なりとも謝礼金を渡せる仕組みができる
と活動がもっと活発化するのではないか
- ・活動企画の中で必要となった案件について学び、その都度交流拡大する。
- ・活動の場を広げる

問 17

誰もが住み慣れた地域で安心して暮らしていくための地域福祉の推進についてご意見ご要望がありましたら、どんなことでも結構ですので、ご記入ください。

○ 子育てサロン

◆ 居場所・交流について (9件)

- ・地域のコミュニケーション不足。
- ・多世代交流。
- ・地元の元気で、時間のある高齢者の中で、希望があれば子育て中の親の帰宅まで、預かることのできる仕組みをつくる。
- ・親とは違う、大人との触れ合いのなかで、地域の大人たちが温かく応援していることを知ったり、地元の歴史や昔の知恵などを伝承できる機会をつくる。
- ・いつでも気軽に立ち寄れる所があればいいと思う。子育て世代でも高齢者でも歩いていってみんなに触れ合う場所がいつでも自由に使える所がほしい。
- ・つながりを大切にするとき心がけている・「顔見知り」→「挨拶」を重ねながら地域の方と顔見知りになること・子供たちの登下校における挨拶。ニッコリと目が笑うとうれしい。
- ・マスクで顔の表情が分かりづらいのでなるべくソフトに声がけを心がけている。
- ・地域の行事にもかかわっていききたい。
- ・子育て世代への SNS を利用した情報発信・同じ月齢のお子さんを持つ親御さんが集まる機会・定年後など時間に余裕のある元気な方が、得意分野を活かして小中学校の授業や部活動のサポートをする仕組みを作してほしい。

◆ サロン運営について (3件)

- ・子育てサロンの活動は民生委員として貴重な活動の場と意識しており、活動を立ち上げた先輩委員に感謝するとともに今後も積極的にかかわって行きたいと思う。
- ・ボランティアを強調しても人が集まらない。人不足の世の中に合わせ時給制にすべき。
- ・サロン等に参加してくれる方はまだ良いが、一人で子育てに苦勞している方や引きこもりになっている高齢者の方がどうしたら参加していただけるかが問題。自治会の回覧等で呼びかけるが、自治会に入っていなかったりして難しい。

◆ 支援について (3件)

- ・サロン以外の子育て支援や若い人たちへの支援活動を日常的に行いたいと思ってもなかなかいい方法が見つからない。貧困や虐待など問題を抱えていそうな方に関する情報共有できるシステムがあると助けになると感じる。高齢者（一人暮らし）の定期的な調査と同じように、例えばシングルマザー、住民税非課税世帯、就学援助受給者の方々などに1回/年程度民生委員が訪問してアンケート調査など実施できるようにすれば、子育て世代の支援活動につながるのではないか。
- ・中学校卒業以降の子どもたちとその保護者への支援を今以上に手厚くしてほしい。相談先が分からないという保護者の声を耳にする。
- ・良いサービスがあるのに、本当に必要とする人達がわからない・どこへ相談に行けばよいか分かっていないと感じる。

◆ その他 (7件)

- ・地域福祉の内容が大分充実してきているように思う。
- ・複雑・多様化する課題も大切だが、市民が自ら自立し、考えて行動し、足りない所・できない部分を補ってもらう自立型福祉も考えていかねばと思う。
- ・高齢者が多い、若者が少なくなる、出生率も低くなっているという状況で、税金を払うより使う方が多くなってしまいうのも不安。その税金も確かなもの、本当に皆のために使われるのであれば良いと思う。
- ・人にかかわれない事が、どんなに淋しいものか、皆が感じたコロナ禍だった。
- ・人との関わりの嬉しさをたくさんの方が味わえるよう、少しでも福祉活動に参加し、生きがいを見つけることができるような計画になるとよい。
- ・社協のふれあい補助をもう少し早めに出してほしい。(例年だと8月下旬)
- ・民生委員など地域の現状に詳しい人の活躍が重要だと思う。

○ 高齢者・多世代サロン

◆ 居場所・交流について (4件)

- ・コロナ禍のため、住民が消極的になり安心して楽しく暮らすことがうすれていると思う。昔のお茶のみ友達・井戸端会議が懐かしい。
- ・地域集会所の充実への支援
- ・コミセンをもっと開放して利用しやすくする。子どもがいつ来ても自由に遊べる場や喫茶コーナーがあればよいと思う。もっと地域の人が集まれる場所であってほしい。
- ・近所の方との付き合いが薄いです。家に居ないで外に出ている（仕事、他）。

◆ サロン運営について（7件）

- ・高齢者サロンを運営する中で“自分達が元気で楽しむ”プラス“地域の中で今の自分達何か役に立てることはないか”と考えることが大事。そのためには関係機関（行政など）からの情報も大事。
- ・サロンの開催場所を毎月使用しているのに、2か月先の予約をとるのは大変なので何とかしてほしい。
- ・毎月、自治会の回覧にイベントのチラシを入れている。自治会関係者も参加してくれるようになった。
- ・もう少し、男性にも参加してほしい。
- ・自治会内の方のみの参加と始めたが、現在は自治会以外、市内の方も参加してる。
- ・ウィズコロナの作戦を教えてほしい。
- ・近隣団地エリアの方々にサロンの声掛けをしている。その団地も高齢化が進み、買い物や日常の生活も難しくなっている。そんな中で家に引きこもることを防ぐためにも、出掛けていく場所知り合いとおしゃべりする場は重要。毎日開いている「たまり場」は増々必要です。様々な活動の中でサロンが高齢者の受け皿として活動していきたい。

◆ 担い手について（4件）

- ・多世代サロン/特に若い人が仕事をしながら地域社会に関心もてる企画や場所をつくっていくことが重要。
- ・各自治会毎のお祭りへの参加・企画立案。夜の自治会館の活用・青年部少年部女性部の組織化など、今後の社会福祉の担い手の育成。
- ・地方の人口は確実に減少していき、人口構成も若手は減り高齢者は増加していく。高齢者が地域を支え動かしていくのには限界が近い。大きな組織で活動を継続するのも無理せず続けることが大切。ローカルなロコミ活動が主体になるべき。
- ・高齢者が増え、若い人が少ない地域では高齢者をまとめて活動するためには若い人の力が必要。実際に活動してくれる人が中心になってくださるとありがたい。

◆ その他（2件）

- ・アンケート結果からみえてくる今後の課題について、専門家も交えた一定の評価と方向性を打ち出す過程も明確にしてほしい。
- ・地域を担当する役員や民生委員さんの役割はとても大きいですが高齢化が進む中、指導する人たちも同じ。年に何回か社協・市役所の職員が地域に出向いてくれるのもいいのではと思う。